

平成19年度病虫害発生予報第2号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) イネミスゾウムシ	並 並	並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	並 並 多	並 並 多
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	やや少 並 - 並 並 並	やや少 やや多 並 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	並 やや多 並	並 やや多 並
なし	黒星病 アブラムシ類	やや多 やや少	やや多 やや少
ぶどう	黒とう病 チャノキイロアザミウマ	やや多 並	やや多 並
果樹共通	果樹カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 カンザワハダニ クワシロカイガラムシ チャノココクモンハマキ チャノホソガ (防除情報第3号) チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	並 並 やや少 並 多 やや少 やや多	並 並 やや少 並 多 やや少 やや多

【発生予報】

本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、食害株率は3.1%(4.0%)、発生圃場率は46.2%(34.7%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は44.0%(39.0%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(30筆)の結果、発病株率は3.5%(5.0%)、発生圃場率20.0%(27.0%)であった。

2. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(30筆)の結果、*C.acutatum*(通称:葉枯炭疽病)の発生は認めなかった(発病株率0.1%)。また、*G.cingulata*の発生も認めなかった(発病株率0.0%)。

3. ハダニ類(ナミハダニ、カザリハダニ)

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(30筆)の結果、寄生株率は6.7%(1.0%)、発生圃場率は40.0%(7.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は散布むらがおこらないように、葉裏まで付着するように十分量を丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率3.5%、発病葉率0.1%)。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 越冬病斑は平年より多い。

(3) 防除上注意すべき事項

越冬病斑が多い園や耐病性が弱い品種では、幼果期に薬剤を散布する。

3. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.6%(2.2%)、発生圃場率は41.0%(21.2%)であった。

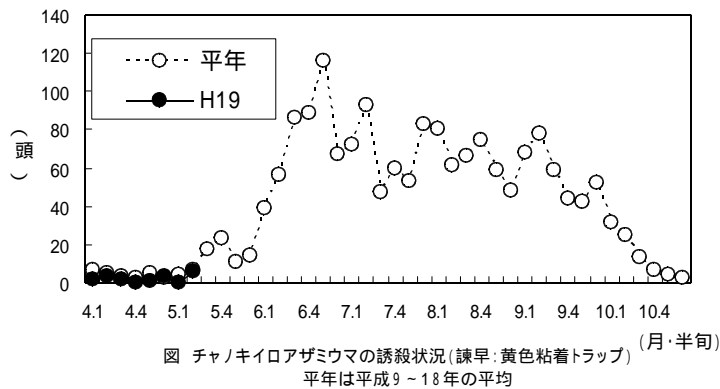
5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並に推移している(図)。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる第2世代成虫の予測発生ピーク日

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
本年予測ピーク日	6/8	6/6	6/12	6/6	6/8	6/9	6/7	6/4
平年ピーク日(予測値)	6/11	6/9	6/15	6/8	6/11	6/13	6/9	6/8

- 注1：プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用した。
- 注2：平成19年5月13日現在で予測し（1月1日～5月13日まで実測値）、5月14日以降のデータは過去10年間の平均値を利用した。
- 注3：発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。同一地区内の山間部では、表より10日～2週間程度遅れる。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

平成18年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査の結果、ヤノネカイガラムシの被害果率は0.3%（0.2%）と平年並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

各地区の防除適期日は、下表のとおりである。

表 ヤノネカイガラムシの初発日と防除適期

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 馬谷川
初発日	5/5	5/4	5/7	5/5	5/6	5/7	5/6	5/3
防除適期(IGR剤)	5/30	5/29	6/1	5/30	5/31	6/1	5/31	5/28
防除適期(有機リン剤)	6/14	6/13	6/16	6/14	6/15	6/16	6/15	6/12

- 注1：ながさき農林業情報システム病害虫発生メッシュを利用して予測した。
- 注2：初発日は各地区の選果場がある地点で算出し、防除適期はIGR剤でその25日後、有機リン剤で40日後とした。
- 注3：同一地区内の山間部では、表より1週間程度遅れる。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率0.8%（0.8%）、発生圃場率は40.0%（30.0%）であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発生枝葉率は0.8%（0.3%）、発生圃場率は40.0%（18.3%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

夏葉伸長期に薬剤を散布する。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量はほぼ平年並で推移している(図)。

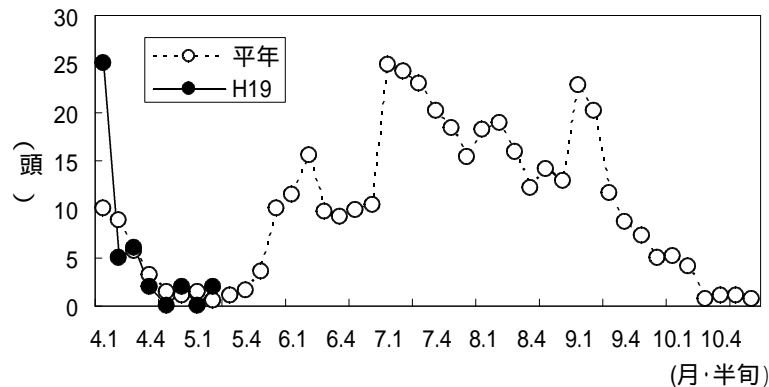


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ)
平年値は平成9～18年の平均

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.5%(0.4%)、発生圃場率は50.0%(23.5%)であった。発病果率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は16.7%(8.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌が生じる恐れがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.0%(1.8%)、発生圃場率は8.3%(24.5%)であった。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.8%(0.1%)、発生圃場率は66.7%(6.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌が生じる恐れがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並に推移している。

果樹共通

1. 果樹カメムシ類

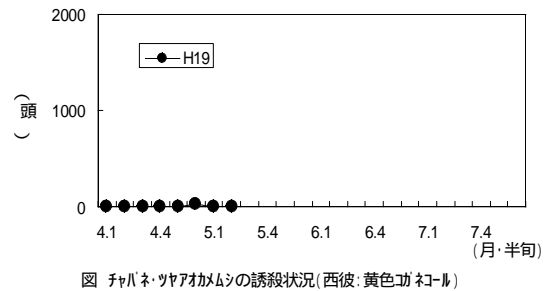
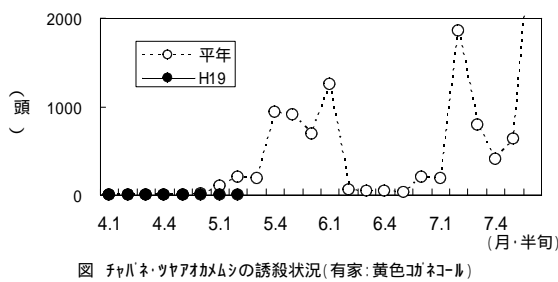
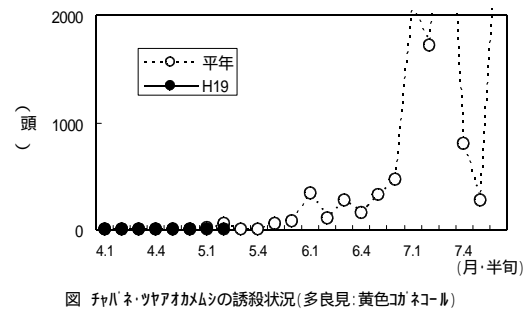
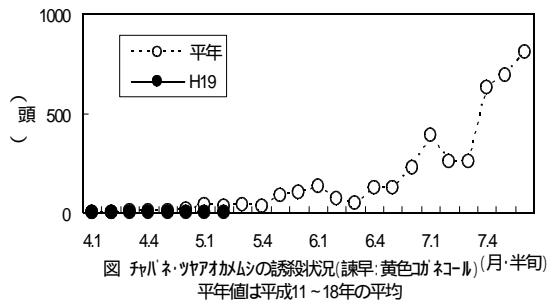
(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップの誘殺量は平年より少なく推移している(図)。

イ 1月下旬に実施した越冬量調査の結果、越冬量は平年より少なかった。



注:多良見町及び有家町は、平成17年から調査を開始し、平年値は過去2年分の平均、西彼町は今年度から調査を始めた。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.8%)。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.4%(0.6%)、発生圃場率は20.0%(17.8%)であった。

3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

平成18年の第3世代の発生はやや少なかった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は年3回(5月中旬~下旬、7月下旬~8月上旬、9月中旬~下旬)に発生するが、そのうち5月のふ化直後の薬剤散布が最も重要である。

イ 1回脱皮して口吻質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を中心に散布する。なお、独自にふ化盛期日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

ウ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日

地区名	東彼杵 赤木	東彼杵 太の原	世知原 板山	世知原 木浦原	五島 大津
平成19年	5/18	5/26	5/29	5/20	5/6
平年(予測値)	5/21	5/27	6/1	5/24	5/17

注1: ふ化盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(東彼杵茶業支場)」により算出した。

注2: 使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュ気象データを利用した。

注3: 平成19年5月13日現在で予測し(1月1日~5月13日まで実測値)、5月14日以降のデータは過去10年間の平均値を利用した。

注4: 同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

4. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.0枚)、発生圃場率は5.0%(0.6%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年よりやや少なかった(図)。

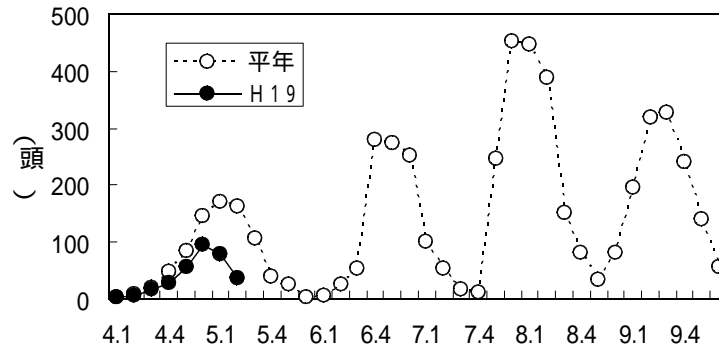


図 チャノカモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フィロモトラップ)(月・半旬)
平年は平成9年～18年の平均値

5. チャノホソガ

平成19年度病害虫発生予察防除情報第3号による。

6. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は1.4頭(9.1頭)、発生圃場率は60.0%(56.1%)であった。

7. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は0.9頭(0.4頭)、発生圃場率は30.0%(17.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫は葉裏にいることが多いので、葉裏にも十分薬剤がかかるよう散布する。

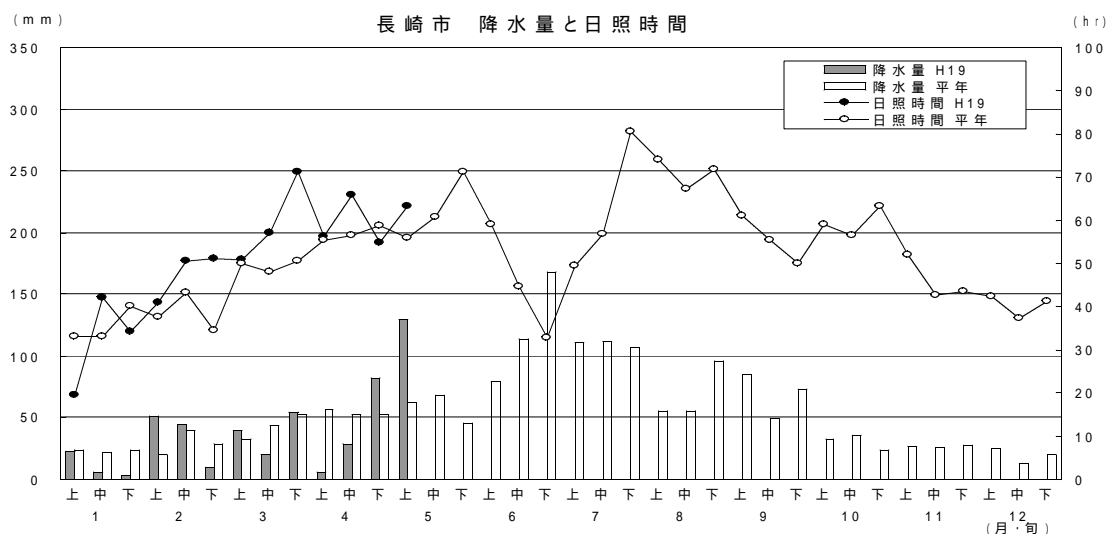
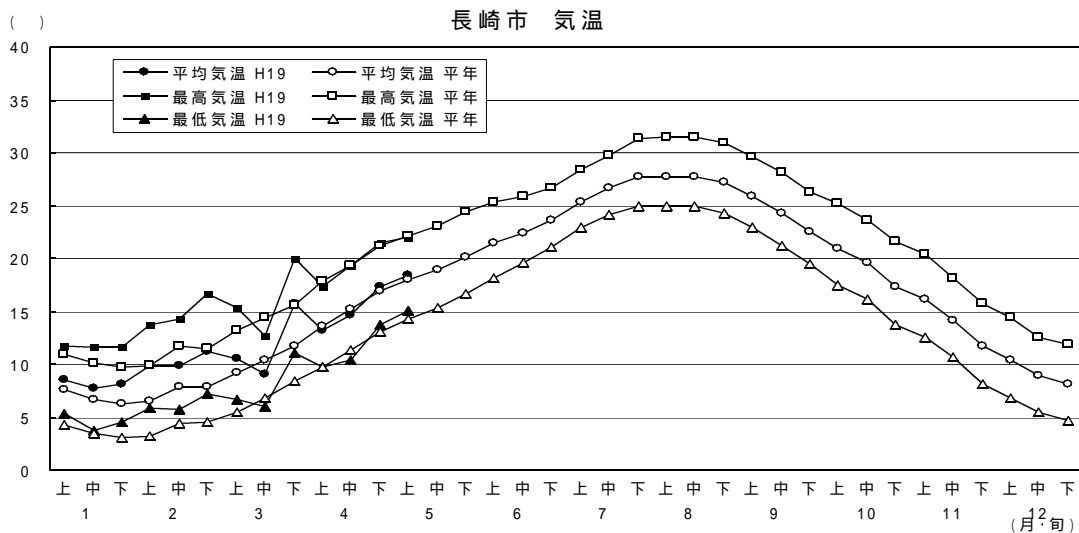
【参考】

気象（平成19年5月11日発表 1か月予報 福岡管区气象台）

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	30	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

文中の市町村名は合併前で表記しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制）
アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>やその他の情報を閲覧することができます。

この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp